

「下末吉層（しもすえよしそう）」という地層があります。今から 12～13 万年前の間氷期に起きたと考えられている「下末吉海進（しもすえよしかいしん）」と呼ばれる海面上昇によって堆積した「海成層」の一つです。約 6000 年前に起きた「縄文海進（じょうもんかいしん）」よりも温暖な気候だったと考えられ、縄文海進時代よりも内陸まで海水が入り込んだと考えられています。横浜市鶴見区の下末吉地区にちなんだ名称です。

下末吉海進時代には、現在よりも最大 10m 程度海面が高かったとされ、関東平野には「古東京湾（ことうきょうわん）」と呼ばれる浅い海が広がっていました。その時期に浅い海底、干潟、河口付近などに堆積した地層が「下末吉層（群）」です。都区部でその露頭を見るのは相当に困難なのですが、その数少ない露頭の一つが、石神井川下流の旧流路跡にある「音無さくら緑地」で見られるのです。

私はその露頭下の路面に落ちていた、明らかに露頭由来の土砂塊を採取してきました。研究室の顕微鏡（ツァイス製）で観察して驚きました。「ザクロ石（ガーネット）」の結晶が異常に多いのです。通常の関東ロームではまず見られない鉱物組成です。下末吉層にザクロ石が多いのは、その「供給源」の地質に理由があります。

下末吉海進に時代は、「古荒川（こあらかわ）」が、今よりも広い地域に浸食物を運搬していました。荒川の上流部（秩父方面）には、日本最大級の広域変成帯である「三波川変成帯（さんぱがわへんせいたい）」とその北側の「領家変成帯（りょうけへんせいたい）」があります。その境界（関東ではほとんど地下に存在）が「中央構造線」です。どちらの変成帯も変成岩で構成され、その中に「紅れん片岩」や「ザクロ石片岩」といったザクロ石を含む変成岩が多数存在するのです。写真の不透明な赤っぽい結晶がすべて「ザクロ石」です。日本屈指の変成帯由来の鉱物（宝石）を、東京都北区の一角で「採取」できるというのは、驚異としか言えません。

（東京都北区 石神井川音無さくら緑地 下末吉層産）

